

一橋大学経済学部 商工中金寄附講義  
「中小企業の経済学」

## 第9回 事業承継対策について

2015年6月10日

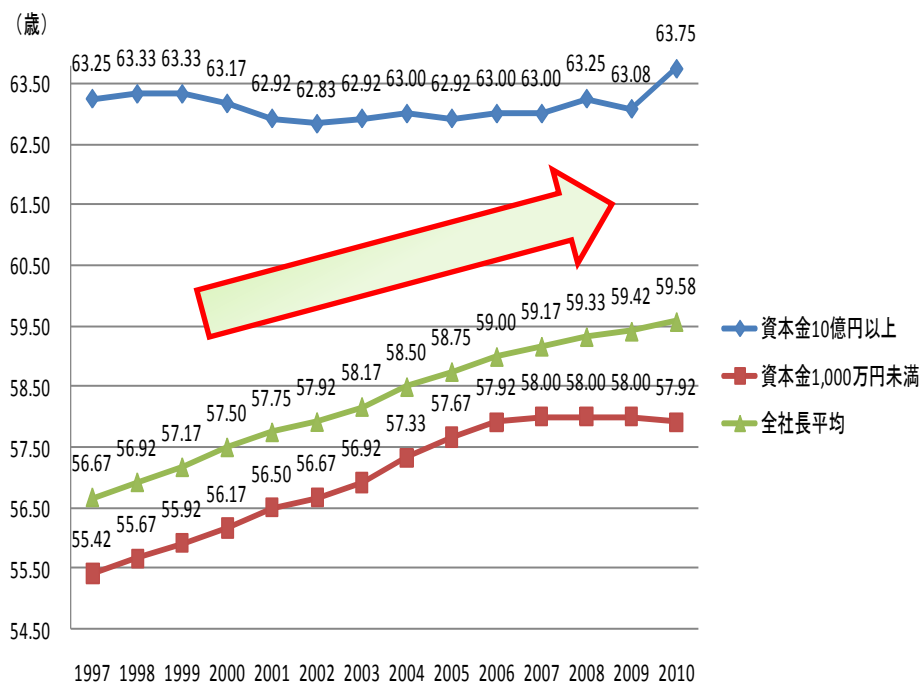
株式会社 商工組合中央金庫

ソリューション事業部 原田 康平

# 1. 事業承継対策の必要性

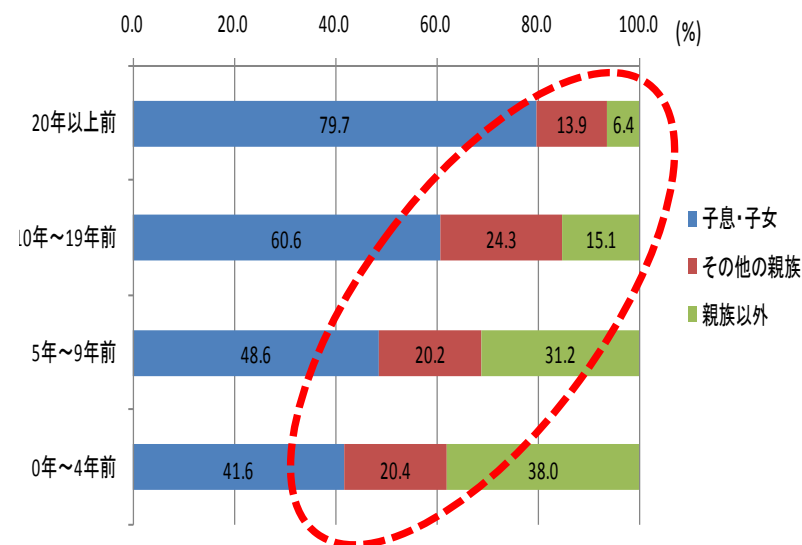
- 近年、企業における経営者の年齢は上昇を続けています。
- その主要因としては、中小企業における経営者の平均年齢が上昇を続けていることがあげられます。
- また、事業承継の形態としては、子息・子女への親族内承継を主体としたものから、その他の親族や親族外への承継も増加傾向にあります。

資本金規模別の代表者の平均年齢の推移



「全国社長分析」(2011年1月帝国データバンク)

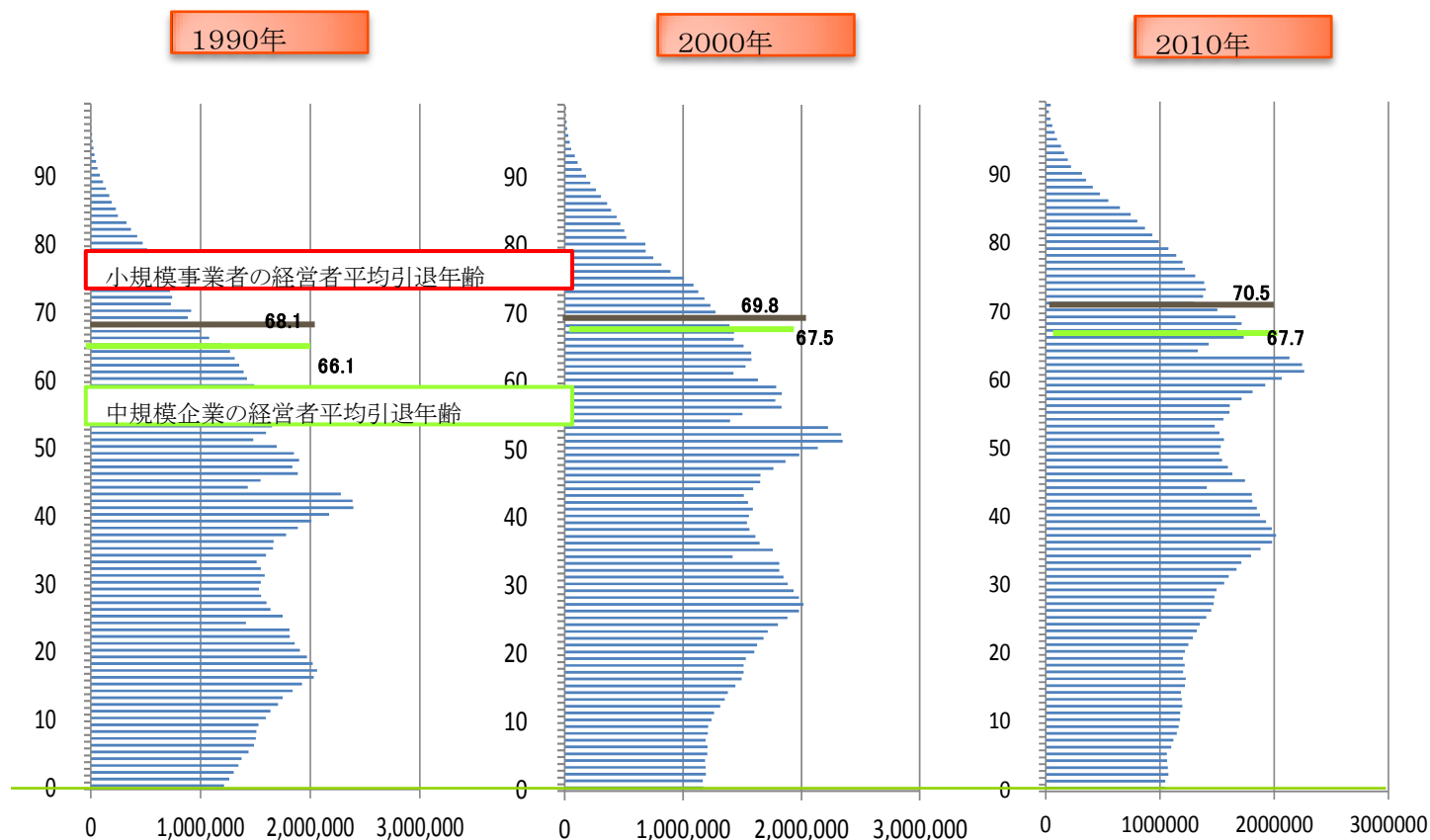
事業承継形態の変遷



「後継者教育に関する実態調査」(2003年)  
(株)東京商工リサーチ

- 企業における経営者の引退年齢は、若干ながら上昇を続けていますが、概ね70歳までには引退されているケースが多くなっています。
- 中小企業の経営者の平均年齢が60歳に近い現況（P2参照）を考慮すると、事業の承継までの期間が10年程しか残されていない現状が分かります。

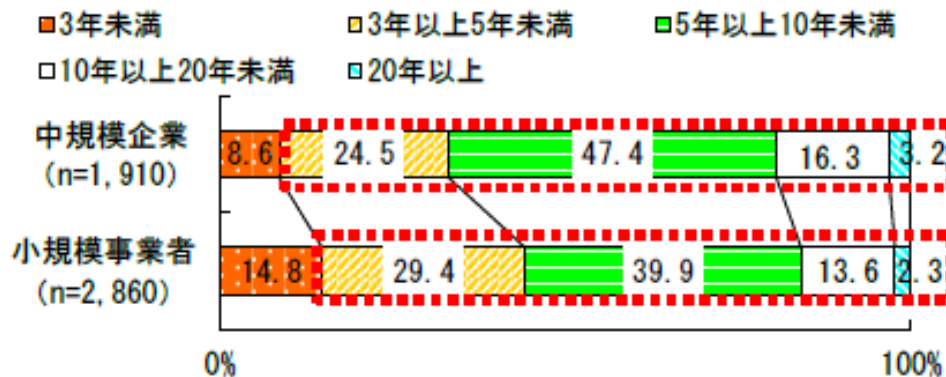
### 年齢別人口と経営者の平均引退年齢の推移



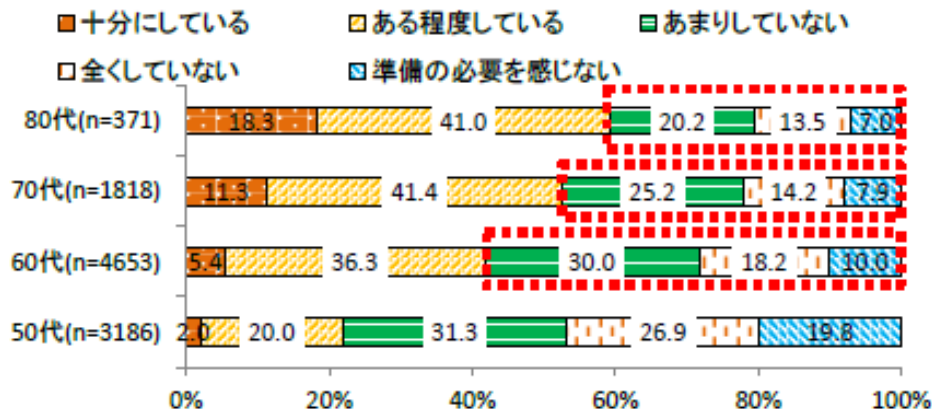
(出典) 年齢人口: 総務省「国政調査」、経営者平均引退年齢: 中小企業庁「中小企業白書」(2013)  
 (備考) 経営者平均引退年齢については、事業承継時期「0～4年前」を2010年、「10～19年前」を2000年、「20～29年前」を1990年においている。

- 中小企業経営者に対し、後継者の育成のために必要な期間を質問したところ、3年以上の期間を要するとの回答が9割に上りました。
- 他方、事業承継に係る準備状況については、60代で6割弱、70代で5割弱、80代でも4割強の経営者が不十分であるとの認識をもっています。

### 後継者の育成期間



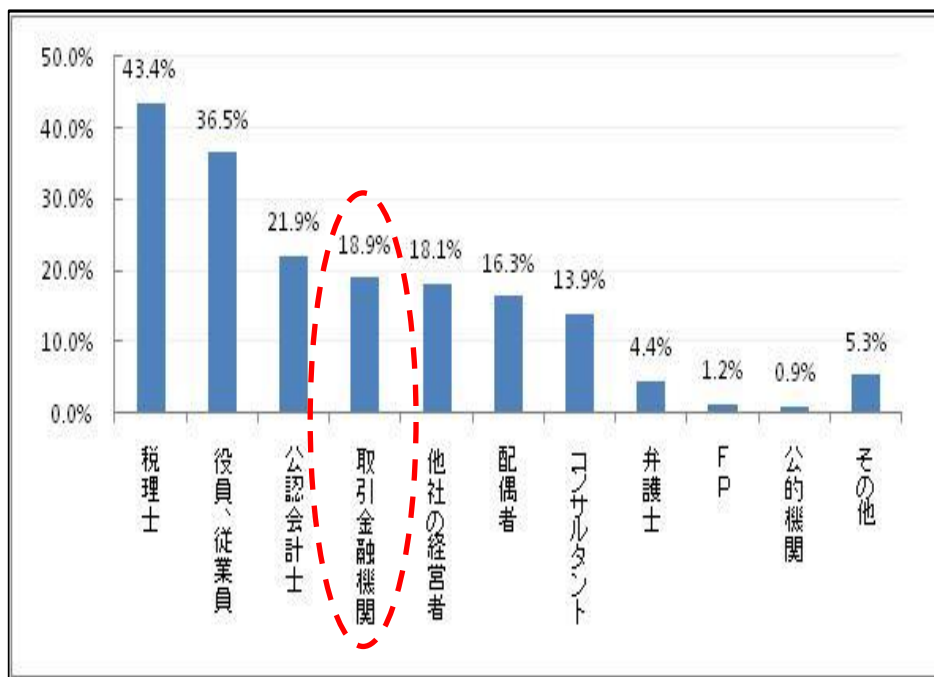
### 経営者の年齢別事業承継の準備状況



資料:2014年度中小企業白書より抜粋

- 事業承継に係る準備状況が不十分と認識している一方、事業承継課題は経営の根幹に関わることが多いことから、「誰に相談すればよいのか」といったことに悩みを抱えられている中小企業経営者も多い状況にあります。

### 中小企業経営者における事業承継の相談先



中小企業の事業承継に関するアンケート調査(2009年)(商工中金)

- 他方、平成27年1月1日より相続税、贈与税の改正が行われました。納税負担が増すことから事業承継を含めて相続対策を考える方が増加してきています。

## 相続税

- ・相続税の基礎控除引き下げ。
- ・相続税の税率構造の見直し。
- ・未成年者控除、障害者控除の控除税の引き下げ。

内容	改正前	現行制度
基礎控除	50,000千円 + 10,000千円 × 法定相続人の数	30,000千円 + 6,000千円 × 法定相続人の数
税率構造	10%, 15%, 20%, 30%, 40%, 50%の6段階	10%, 15%, 20%, 30%, 40%, <u>45%</u> , 50%, <u>55%</u> の8段階

## 贈与税

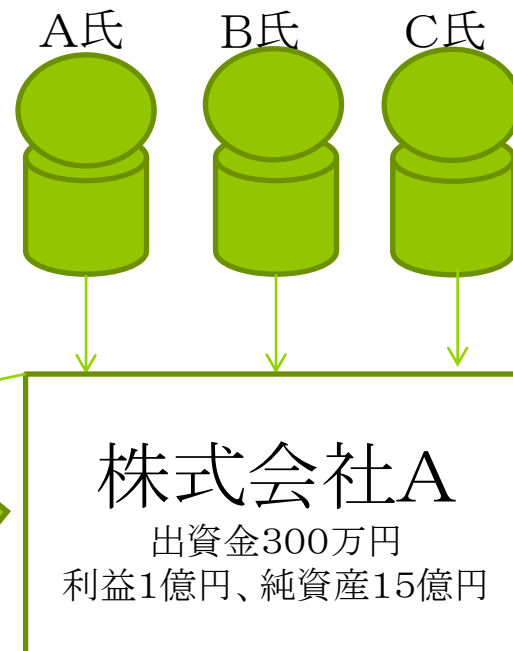
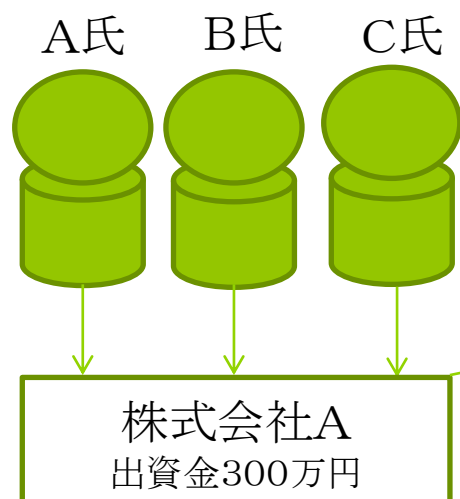
- ・高齢者の資産を現役世代に移転させるため贈与税の税率構造が緩和。
- ・20歳以上の者が直系尊属から贈与を受ける場合、一般の贈与よりも低い贈与税率。
- ・相続税の最高税率55%に合わせ、贈与税の最高税率も55%へ。

内容	改正前	現行制度
税率	10%, 15%, 20%, 30%, 40%, 50%の6段階	10%, 15%, 20%, 30%, 40%, <u>45%</u> , 50%, <u>55%</u> の8段階
直系尊属からの贈与	直系尊属以外からの贈与と同様	税率構造の緩和(※) ※20歳以上の者への直系尊属(父母、祖父母等)からの贈与に限る

➤ 事業承継に難しさを考えてみましょう。

A氏、B氏、C氏が100万円ずつ出資して株式会社Aを設立

A氏、B氏、C氏が出資した100万円の価値は？



【問題】

各々100万円を出資してできた株式会社Aは、30年後、毎年1億円の利益を生み出し、15億円もの純資産(内部留保)を蓄積することができました。A氏、B氏、C氏それぞれ高齢になり、株式を後継者に集約しようと考えています。出資した金額100万円はいくらになっていると思いますか？



## 【回答】

いつ、誰に株式を移転させるかによって、株価は異なります。

(例1) A氏、B氏、C氏に血縁関係があり、A氏の子D氏に集約させる場合  
…相続税法上の株価(※参考資料を参照)にて評価します。

(原則的評価※) 類似業種比準価格方式、純資産価格方式、  
類似業種比準価格方式と純資産価格方式の折衷方式

仮に純資産価格方式で算定する場合は、1人あたり5億円の株価となります

100万円  
が5億円  
に…

(例2) M&Aにより血縁関係の無い第三者に株式を売却する場合  
…お互いの経済的合理性を勘案し、合意する価格となります。

(参考とする価格) DCF方式、純資産価格+営業権、類似会社方式、  
取引事例方式、配当還元方式など



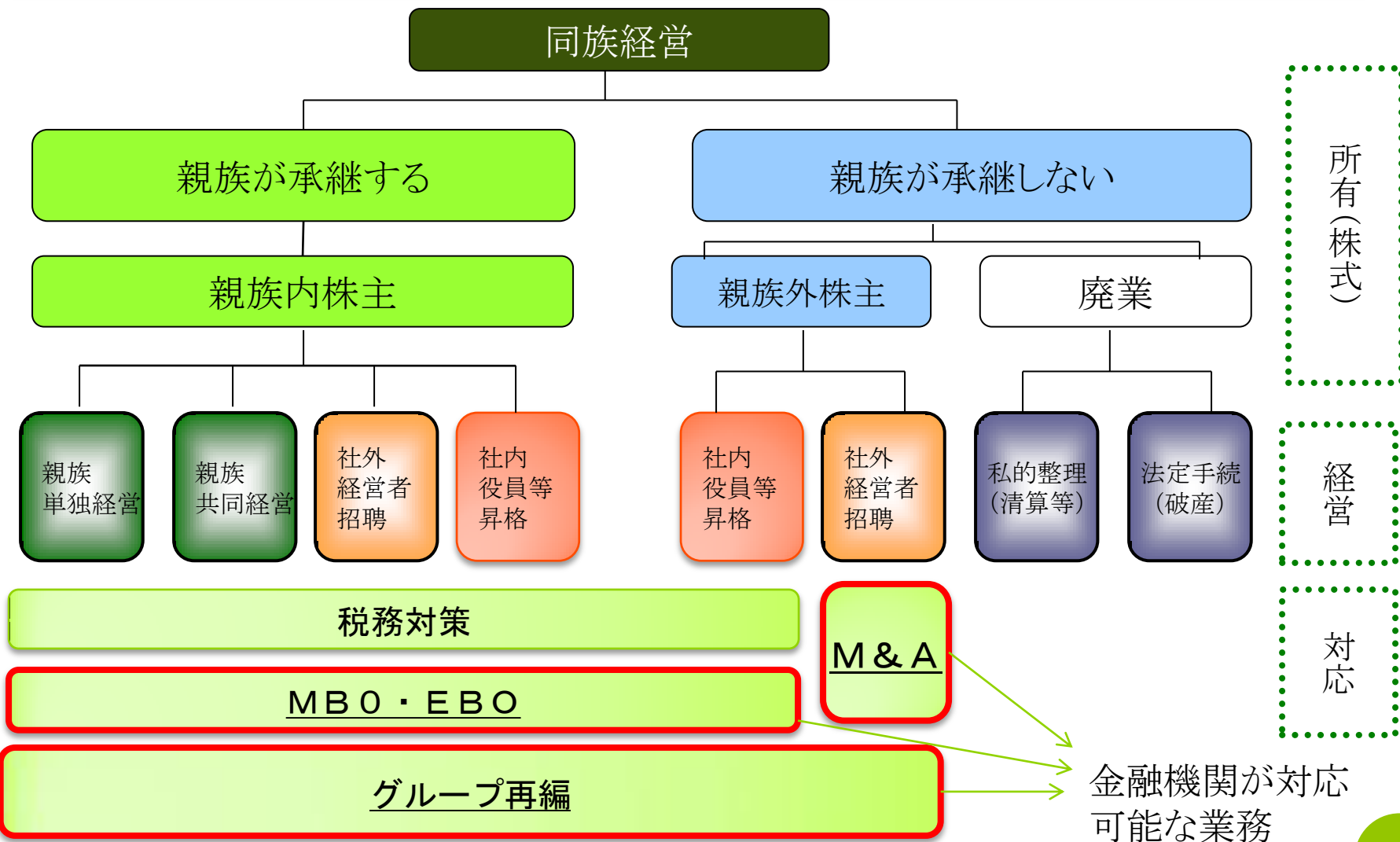
純資産価格方式+営業権(利益の5年分を営業権と仮定)の場合、株価の総額は20億円(一人当たり6.7億円)となります



**中小企業の株価は複数の評価方法があるんだ。  
毎年変わるし、渡す相手によっても株価が変わるので  
困惑する経営者も多いよ。**

## 2. 具体的な事業承継支援

➤ わが国における中小企業は、大多数が中小企業（同族企業）が多いことを踏まえ、中小企業における主な事業承継支援手法をご紹介します。



- 事業承継において、親族内での承継は、依然重要な支援局面の一つです。
- そのため、親族間で株式を移転させる際の株価算定の基本的な考え方についてご紹介します。

### ①類似業種比準価額

評価会社(分子)と類似会社(分母)の配当、利益、純資産を比準して計算。

$$A \times \left( \frac{b}{B} + \frac{c}{C} \times 3 + \frac{d}{D} \right) \times \frac{1}{5} \times \begin{matrix} \text{斟酌率} \\ 0.7 \\ 0.6 \\ 0.5 \end{matrix} \times \frac{\text{1株当りの資本金等の額}}{50\text{円}} = \text{株価}$$

配当
利益
純資産

類似業種株価

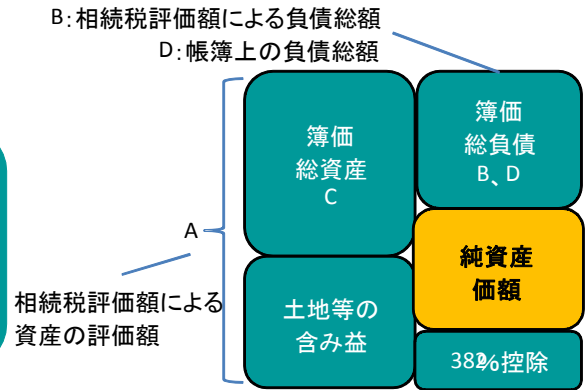
比準割合が他の項目に比べ3倍のため、利益が大きい会社ほど株価が上がる傾向にあります。

会社の規模によって掛目が変わります。

### ②純資産価額

資産・負債について時価評価(相続税評価額)し、株価を計算。

$$\frac{(A-B) - [(A-B) - (C-D)] \times 38\%}{(\text{発行済株式数}) - (\text{自己株式数})} = \text{株価}$$



- 株式の移転に際しては、譲渡のほか、贈与、相続など様々な手法が存在しますが、様々な局面で税制上の課題が生じることも事実です。
- ここでは、事業承継にまつわる主要な税制をご紹介します。

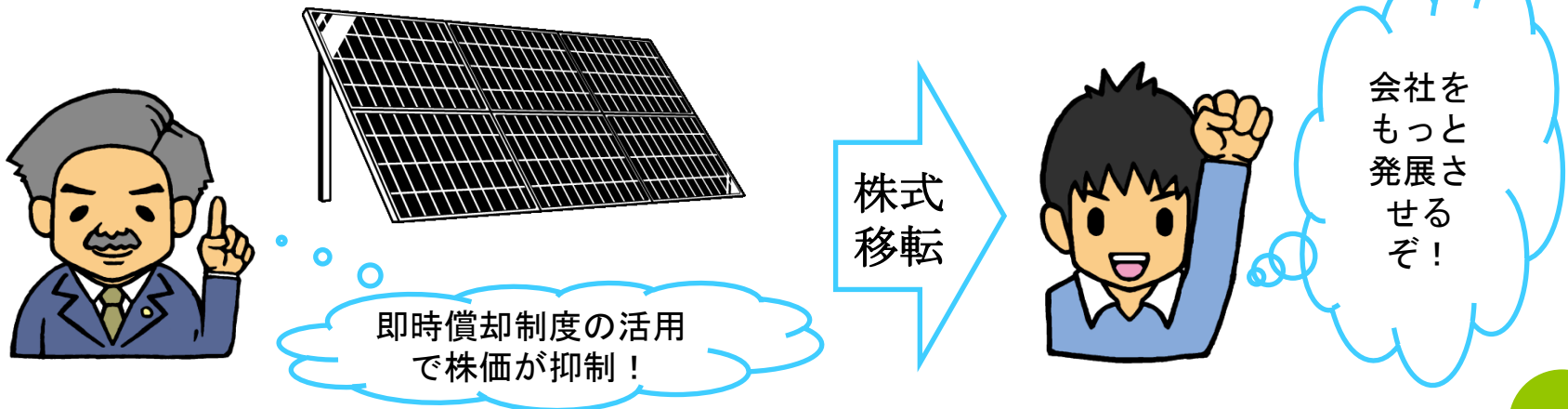
	効果	要件	留意事項
暦年贈与	基礎控除110万円	なし	高い税率 基礎控除内110万円での贈与を続けるには時間がかかる
相続時 精算課税制度	贈与時に納付した贈与税を相続時に精算する制度(※) 特別控除額2,500万円	60歳以上の親から20歳以上の子への贈与	相続時に贈与により取得した財産を相続財産に加算して相続税額を計算(納付済の贈与税額は相続税より控除)
非上場株式に係る納税猶予制度	経営承継相続人が、相続・贈与により取得した議決権の3分の2までの株式について、課税価格の80%に対応する相続税額を猶予(死亡により免除)	親族内承継で以下を満たす ・後継者 筆頭株主かつ同族で過半を保有 ・先代経営者 代表者経験あり、筆頭株主かつ同族で過半を保有	<ul style="list-style-type: none"> <li>•適用要件を満たさなくなった場合、納税猶予に係る相続税を利子税と併せて納付する必要</li> <li>•猶予株式の継続保有</li> <li>•雇用を80%維持(5年間) 等</li> </ul>

※贈与税額の計算 = (贈与財産 - 特別控除2,500万円) × 20%

### 3. 商工中金における事業承継支援事例

## ◆ ケース I 株式移転の事例

- ・ ガソリンやプロパンガスなどのエネルギー販売事業を行う A社は、安定した収益力を背景に、財務の磨き上げを進めてきました。
- ・ 同時に、社長は今後の更なる企業成長のためには、円滑な事業承継の実現が必要であると強く感じていました。
- ・ しかし、株価は每期上昇を続けており、後継者は社長子息と決定しているものの、  
今後の事業承継の進め方に大きな悩みを抱えていました。
- ・ 相談を受けた商工中金は、提携税理士と同行し、株価算定の実施のほか、具体的な承継手法スキームの提案を行うとともに、社長の経営方針や後継者の育成方針についてディスカッションを行いました。
- ・ その結果、太陽光パネルの設備投資を行う予定であったことから、即時償却制度の効果により株価が抑制された状態となることが分かったため、同タイミングで株式を移転する方針としました。



## ◆ ケースⅡ 第三者に株式を譲渡した事例（M&A）

- ・ B銀行（第一地方銀行）は、業歴30年を有し、防犯用レンズ分野に高い技術力を有するレンズ製造メーカーであるC社より、社長が高齢となるも後継者が不在であることを理由とし、M&Aによる事業承継の相談を受けておりました。
- ・ 地域に限定のあるB銀行内のネットワークでは買い手探索に苦慮し、同行より商工中金宛相談を受け、買い手候補D社を紹介しました。
- ・ D社は、光学レンズの卸売業者で、営業力に強みを有し、海外展開を検討していた一方、独自ブランドの開発・獲得に課題を抱えていました。
- ・ 両者のニーズが合致し、スムーズな交渉の結果、D社によるS CのM&Aが行われました。
- ・ 商工中金では、独自のネットワークに加え、複数の地域金融機関と連携を強化しています。

